全体構想

生徒の実態

- ・学ぼうとする意欲があり、学習活動に積極的に取り組む。
- ・グループなどの学び合い活動には意欲的に取り組んでいる。
- ・忍耐力に欠け、自分で考えて学習に取り組むことが苦手である。

学力調査の結果

- ・難しい学習内容でも、努力して考え、表現しようとする姿勢が見られる。
- ・基礎基本の内容の定着が不十分である。
- ・文章や出題者の意図を的確に読み取り、論理的に表現する力に課題が見られる。
- ・家庭学習の時間が少ない。学校から出る課題以上の学習に取り組めていない。

学校教育目標

確かな学力と心豊かでたくましい社会性を身につけた生徒の育成

自他共栄～互いに高め合う学校づくり～

研究主題

考え、高め合い、表現する生徒の育成

—「つなぐ、広げる、深める」授業づくりを通して—

これまでの研究の歩み

- 令和3年度 副題を — 自ら考え、学びを自覚し、表現する授業の工夫 — に変更
・重点 学びの自覚(何ができるようになったか、何が分かったかを自覚できるような終末の工夫)
- 令和4年度 副題を — 自ら考え、学びを自覚し、表現する授業の工夫 — に変更
・重点 学びの自覚(何ができるようになったか、何が分かったかを自覚できるような終末の工夫)
- 令和5年度 主題を「考え、高め合い、表現する生徒の育成」に変更
令和5年度 副題を—「つなぐ、広げる、深める」授業づくりを通して—に変更
・重点 「つなぐ・広げる・深める」教師の働きかけ(H29年度より継続)
・重点 学んだことを表現する授業展開の工夫

本年度の重点

「つなぐ・広げる・深める」授業づくりを通して、表現力を育成する

いしかわ学びの指針【学びの12か条+】の中の重点

- (1) 物事を多様な観点から考察する力の育成
- (4) 目的や状況・相手に応じて「聞く」「話す」態度・姿勢の醸成
- (5) 目的や条件に応じて「書く」、必要な情報を「読む」態度・姿勢の醸成
- (6) よりよい解決に向かうための質の高い学び合いのプロセスの重視

研究企画委員会

校内研修会(全体会)

教科部会・学習指導部会

- ・教科のねらいと「つけたい力」の達成
→ 年間・単元の中で、学び合い活動を意図的に取り入れる
- ・言語活動の充実
→ 根拠や筋道を明確にして表現する活動の設定
- ・課題解決型の授業の工夫＝生徒が主体的に学ぶ工夫
→ 課題、発問の工夫、教師の発話をいかに減らすか
- ・学んだことを生かして考え、表現する活動の充実
→ まとめ、振り返りの時間の確保、構造的な授業づくりの工夫

学年会

特別の教科「道徳」

総合的な学習の時間

特別活動

キャリア教育

生徒指導の三機能

(自己決定の場を与える・自己存在感を与える・共感的人間関係を育成する)

家庭学習
習慣

授業規律
の徹底

学習環境
の整備

支える活動

教育活動全般・地域からの学び